

●○○ 第158回あすか倶楽部 定例会 ●○○

テーマ：くすりを飲まずにすんだら・・・

講師：薬剤師 永島 京介氏（消費生活アドバイザー30期）

日時：2014年1月18日（土）14:00～17:00

場所：トヨタ自動車（株）池袋アムラックスビル6階604会議室

少しでもおかしいなと思ったら薬を飲まずにいられない私が、いつもとは違った出で立ちの、白衣姿の永島講師からご教授いただいた事柄をご報告いたします。

### 【薬の分類】

#### 医薬品

- ◆一般用医薬品（薬局・薬店の店頭で販売される薬）
- ◆医薬用医薬品（病院・診療所の医師から処方される薬）
  - ・新薬（先発医薬品）
  - ・ジェネリック薬品（後発医薬品）需要、供給、製造難度、メーカーにより価格が違う

### 【一般用医薬品の分類】

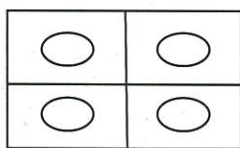
リスク区分	定義	販売者	販売時の義務
◆第一類医薬品	特にリスクの高い	薬剤師	文章による情報提供及び相談応答
◆第二類医薬品	リスクが比較的高い	薬剤師 登録販売者	相談応答（文章による情報提供は努力義務）
◆第三類医薬品	リスクが比較的低い	薬剤師 登録販売者	相談応答

※楽天は「第一類医薬品」もネット販売希望

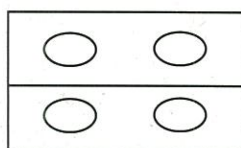
### 【薬のかたち】

#### ◆内用薬

- ・錠剤 糖衣錠・フィルムコーティング錠・チュアブル錠  
腸溶錠（飲み込む嚙み砕くと副作用もある）  
徐放錠（飲む回数を減少）  
口腔内破壊錠（高齢化向け唾液で溶ける）  
舌下錠（必ず舌下効き目はおなかで吸収）・トローチ
- ・カプセル・散剤・顆粒剤・粉末・液剤・シロップ



→



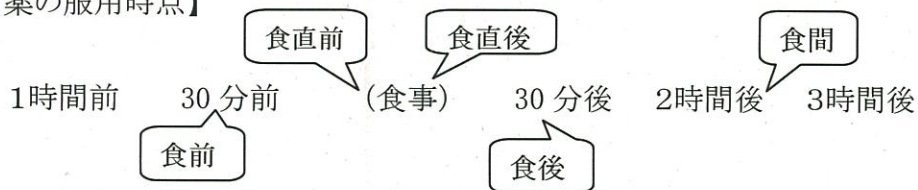
※錠剤の切り取り線変更  
シートのままの誤飲を防ぐため  
1錠ずつ → 2錠ずつ

#### ◆外用薬

- ・軟膏剤 軟膏(べっとり)・クリーム(のびる)
- ・貼付剤 冷感・温感・鎮痛消炎
- ・経皮吸収型製剤(咳をとめるシップ ジェネリック薬品が追いつかない程)
- ・外用液剤 ローション・ジェル・吸入剤・点眼剤・点耳剤・点鼻薬・坐剤・膣剤

#### ◆注射薬

#### 【薬の服用時点】



#### ※副作用

症状は寒気・頭痛、発疹、咳、むくみ、喉の腫れ、動悸、息切れ等で服用後即座に現れる場合としばらく経ってからの場合がある。

#### ※薬と飲食物・嗜好品との相互作用

組み合わせの種類が多数であるため、個別に薬剤師や主治医に聞く。

#### 【薬物汚染】

日本は先進国のなかで薬物汚染の極めて少ない国である。大麻の生涯経験率は下記の通りとなる。

- ・米国 40%・英国 31%・ドイツ 25%・フランス 23%・イタリア 22%・オランダ 21%
- ・スウェーデン 4%・日本 1%前後    其中、日本薬物対策協会の調査(2012年9月～12月 東京・神奈川・埼玉中高生一部)で5.9%が試してみたいと回答している。

#### 【風邪薬】

風邪薬を発明した人はノーベル賞ものというくらいで、現在は症状に合わせた薬を選ぶようにする。処方された抗生物質は回数を必ず守り全て飲み切るようにする。

#### 【糖尿病】

糖尿病は国民病といわれる程、確認されている患者数が950万人で、このうち4割近い人は治療を受けていない。糖尿病予備軍と合わせると国民の5人に1人(2000万人)が糖尿病とも言われる。

## 【HIV≠AIDS】

- ・HIV ヒト免疫不全ウイルス
- ・AIDS 後天性免疫不全症候群

HIVに感染すると3ヶ月くらいまで急激なウイルスが増殖し、約5～10年の時間をかけて徐々にCD4細胞が破壊され、症状がなくてもHIV感染症は進行します。免疫が正常に働かなくなった時、日和見感染症に感染しAID発症となります。HIVに感染しても薬を飲み続けると生きていけるそうです。

## 【帯状疱疹】

子供の頃にかかった水ぼうそうウイルスが身体の神経節に潜伏しています。大人になり、加齢・過度のストレス・糖尿病等が原因でウイルスが神経から皮膚に向い発症します。発疹のしやすい部位として顔・胸・腹・背中・腰があり、早期の治療開始が大切となります。

## 【COPD】

健康な肺は、肺胞と呼ばれる袋のまわりの血管で酸素が取り込まれます。気管支が狭くなり空気が出にくくなったり、肺胞が膨らんで繋がり血管が壊れ酸素が受けにくくなってしまいます。発症がハイリスクな人として、40歳以上で現在喫煙習慣があり(過去に喫煙歴がある)虚血性心疾患(高血圧・狭心症・心筋梗塞)・慢性疾患(糖尿病・骨粗鬆症)があり禁煙指数が200以上。(禁煙指数=1日に吸うタバコの本数×喫煙している年数)

## 【所感】

幼い頃、風邪薬(黒いシロップ)3日分を甘くて美味しかったので、親の目を盗み半日で飲み切った事があります。それに対しての身体の変化は記憶にありませんが、母にこっ酷く叱られた覚えはあります。高校生の頃、痛みを堪えきれず、鎮痛剤を2～3日で1箱飲み、幻覚症状に陥った経験があります。人の身体は強くもあり、脆くもあると痛感した出来事でした。常飲している血圧の薬で倍の分量の錠剤を渡された事があります。薬剤師さんの単純なミスでしたが、日々の棚卸はしないのでしょうか?日頃の数字に対しての観念に助けられ、飲用前に気付き安堵しました。ジェネリック薬品を試してみないかと飲用しましたが、気のせいも多々あるとは思われますが、頭痛を伴い元に戻してもらいました。使用されている原料の添加物が合わなかったようです。

以上が永島講師のお話をお伺いしている間に思いめぐらせた薬にまつわる思い出です。薬は楽になるように飲むものだと思っていたのですが、その反動に副作用もあり、我慢出来る状態であるのであれば、飲まないのに越した事はないと考え直す時間をいただいた次第です。また、回覧された血管の画像はかなり衝撃的でした。あの中の1本に支障を来たしても正常じゃなくなる事を肝に銘じました。薬を飲まずに人生を楽しめる身体になれるよう心がけたいと思います。